

提出期限：令和7年3月21日(金)

令和 7年 3月 21日

山形大学「つなぐちから。」 社会共創活動推進プロジェクト  
実施報告書

報告者名	阿部 宇洋	
団体名および構成員 ※団体で活動を行った場合のみ記載 (欄が足りない場合は行を追加して記入してください。)	団体名 米沢刺し子保存伝承準備委員会 → 米沢さしこの会	
	氏名	所属
	阿部宇洋	山形大学 学術研究院 学士課程基盤教育院
	遠藤きよ子	米沢市 技術伝承者
	金田江里子	米沢市 株式会社tree 代表取締役
	他 米沢さしこの (14名)	置賜地域
活動名	民俗技術を未来へつなぐ。～米沢刺し子～	
連携して活動を行ったプラットフォーム加盟機関名	米沢市	
活動報告	<p>《活動内容》 米沢の無形民俗技術「原方刺し子」は、現在、遠藤きよ子のみが伝承し伝承組織がない状況である。いっぽうで、「原方刺し子」は山形を代表する刺し子として有名で観光資源や、米沢藩を説明する際にも欠かせない要素になっている。原方刺し子は一定の身分のものしか伝承されてきていなかったが、広く技術伝承することを目的として「米沢刺し子」を提唱し、今回、伝承を継承する組織を、官、民、大学連携して立ち上げ継承する基盤を築く。 団体組織の立ち上げと、刺し子に関する技術を民間で継承する任意団体を組織する。そのうえで、ワークショップを開催し、会員を募集し、刺し子の技術と学術的な歴史背景を継承する場を整える。</p> <p>《実施した効果》 大学生へのワークショップは講評で、民俗技術習得の大変さや、作成時間に対するの価格の安さ、伝承の難しさなど考えるきっかけを得たようである。また、急遽遠藤氏が引退することが決まり会の成立に関わることが出来なくなったものの、地域の経験者が14人集まり刺し子の伝承を主とした団体の設立がスムーズに行なわれた。</p>	

(裏面あり)

実施スケジュール	≪スケジュール≫ 3月14日 打ち合わせ 6月3日 打ち合わせ 6月11日、18日 米沢女子短期大学でのワークショップ 6月24日、7月1日 山形大学でワークショップ（オンライン）  11月 （遠藤きよ子氏引退）原方刺し子保存会の立ち上げ 1月23日 立ち上げのための会議「米沢さしこの会」と名称決定 2月20日 会則のための会議1 3月13日 会則のための会議2 （4月1日 「米沢さしこの会」発足）						
支援金の用途報告	合計 100000 円						
	(内訳)	(品名・使途他)	(数)	×	(単価)	=	(金額)
	講義用木綿	講義で利用する		×		=	10000円
	WS（ワークショップ）用木綿	市民向けWSで利用		×		=	80000円
	刺し子金型開発	WS用製図用		×		=	3630円
	消耗品	WS用		×		=	7243円
				×		=	円
次年度の計画について	会では発足と同時に、市町村への補助金制度の応募などを積極的に行なう予定。発足前だが、会には、様々な問い合わせ（ワークショップ、研究訪問など）が来ている状況。継続的に会が運営できるように、会費、維持費を収集すると共に、売れる商品の開発を進める予定。次年度も山大生へのワークショップを講義に組み込んでいる。また、市民向けワークショップも企画しており、さらに連携などが期待される。						
本事業へのご意見・要望	本活動への補助をありがとうございました。おかげさまで、消えゆく民俗技術を延命する処置が出来ました。会が安定するまで、3年ほどかかると見込んでいます。つきましては、継続して補助ご支援頂ければ幸いです。						
活動に関するHPや情報がございましたら、URLの添付をお願いいたします。	とくになし						

1 この報告書はA4版表裏1枚以内で作成の上、メールに添付して提出してください。

問い合わせ先：山形大学総務部総務課社会共創推進事務室  
 TEL：023-628-4615 MAIL：yu-shakaikyousou@jm.kj.yamagata-u.ac.jp